

平成24年度採択プログラム 中間評価調査

博士課程教育リーディングプログラム プログラムの概要 [公表。ただし、項目13については非公表]

機関名	東京大学	整理番号	K01
1. 全体責任者 (学長)	※共同実施のプログラムの場合は、全ての構成大学の学長について記入し、取りまとめを行っている大学(連合大学院によるもの場合は基幹大学)の学長名に下線を引いてください。 (ふりがな) ごのかみ まこと 氏名・職名 五神 真 (東京大学総長)		
2. プログラム責任者	(ふりがな) さかい しゅういち 氏名・職名 坂井 修一 (東京大学大学院情報理工学系研究科長・電子情報学専攻)		
3. プログラム コーディネーター	(ふりがな) くによし やすお 氏名・職名 國吉 康夫 (東京大学大学院情報理工学系研究科教授・知能機械情報学専攻)		
4. 類型	K<複合領域型(情報)>		
5.	プログラム名称	ソーシャルICT グローバル・クリエイティブリーダー育成プログラム	
	英語名称	Graduate Program for Social ICT Global Creative Leaders	
	副題		
6. 授与する博士学位分野・名称	分野:情報理工学, 学際情報学, 社会情報学, 工学, 医学, 保健学, 農学, 教育学, 経済学, 法学 博士(情報理工学), 博士(学際情報学), 博士(社会情報学), 博士(工学), 博士(医学), 博士(保健学), 博士(農学), 博士(教育学), 博士(経済学), 博士(法学)		
7. 主要分科	(① 情報学) (② 電気電子工学) (③ 社会・安全システム科学) ※ 複合領域型は太枠に主要な分科を記入 機械工学, 都市計画・建築計画, 看護学, 農業工学, 社会医学, 数学, 心理学, 経営学, 経済学, 政治学		
8. 主要細目	(①) (②) (③) ※ オンリーワン型は太枠に主要な細目を記入 情報学基礎, ソフトウェア, 計算機システム・ネットワーク, メディア情報学・データベース, 知能情報学, 知覚情報処理・知能ロボティクス, 感性情報学・ソフトコンピューティング, 図書館情報学・人文社会情報学, 認知科学, 統計科学, 生体生命情報学, 社会システム工学・安全システム, 公衆衛生学・健康科学, 地域・老年看護学, 農業土木学・農村計画学, 農業情報工学, 臨床心理学, 経営学, 経済政策, 政治学		
9. 専攻等名 (主たる専攻等がある場合は下線を引いてください。)	情報理工学系研究科(コンピュータ科学専攻、数理情報学専攻、システム情報学専攻、電子情報学専攻、知能機械情報学専攻、創造情報学専攻)、学際情報学府(学際情報学専攻)、工学系研究科(都市工学専攻、電気系工学専攻)、医学系研究科(社会医学専攻、健康科学・看護学専攻、公共健康医学専攻)、農学生命科学研究科(農学国際専攻)、教育学研究科(総合教育科学専攻)、経済学研究科(マネジメント専攻)、公共政策大学院、法学政治学研究科(総合法政専攻)		
10. 共同教育課程を設置している場合の共同実施機関名			
11. 連合大学院として参画している場合の共同実施機関名			
12. 連携先機関名(他の大学等と連携した取組の場合の機関名、研究科専攻等名)	日本経済団体連合会、日本情報システム・ユーザー協会、日本規格協会、科学技術政策研究所、統計数理研究所、国際協力機構、ISO、NPO法人EduceTechnologies、東京海上日動火災保険、日本IBM、Google、エーザイ、Microsoft、Infosys、三菱商事、NTTデータ、新日鉄住金ソリューションズ、e-Corporation.JP、ETH、Manchester Univ.、UC Berkeley、Technische Universität München、Université Pierre & Marie Curie、Chulalongkorn University、佐賀県、内閣官房情報通信技術担当室、経済産業省商務情報政策局 情報政策課 情報プロジェクト室、総務省総合通信基盤局電波部		

(機関名:東京大学 類型: 複合領域型(情報) プログラム名称:ソーシャルICT グローバル・クリエイティブリーダー育成プログラム)

14. プログラム担当者の構成 計 93 名

外国人の人数	10 人	[10.7 %]	女性の人数	11 人	[11.8 %]
--------	------	-----------	-------	------	-----------

プログラム実施大学に属する者の割合	[63.0 %]
-------------------	-----------

プログラム実施大学に属する者	59 人	プログラム実施大学以外に属する者	34 人
そのうち、他大学等を経験したことのある者	46 人	そのうち、大学等以外に属する者	29 人

15. プログラム担当者

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門学位	役割分担 (平成26年度における役割)
(プログラム責任者) 坂井 修一	サカイシュウイチ		大学院情報理工学系研究科・研究科長	安全・安心情報システム工学博士	プログラム全体の統括
(プログラムコーディネーター) 國吉 康夫	クニヨシヤスオ		大学院情報理工学系研究科 知能機械情報学専攻・教授	知能システム情報学工学博士	プログラム推進に関わる企画・統率・調整全般
萩谷 昌己	ハギヤマサミ		大学院情報理工学系研究科 コンピュータ科学専攻・教授/ 同研究科ソーシャルICT研究センター・センター長	コンピュータ科学理学博士	サブコーディネーター (プログラムコーディネーター補佐)
今井 浩	イマイヒロシ		大学院情報理工学系研究科 コンピュータ科学専攻・教授	アルゴリズム論工学博士	運営協議会委員
小林 直樹	コバヤシナオキ		大学院情報理工学系研究科 コンピュータ科学専攻・教授	ソフトウェア検証博士(理学)	カリキュラム委員
須田 礼仁	スダレイジ		大学院情報理工学系研究科 コンピュータ科学専攻・教授	並列高性能計算博士(理学)	学生評価委員
竹村 彰通	タケムラアキミチ		大学院情報理工学系研究科 数理情報学専攻・教授	統計学 Ph. D.	運営協議会委員、連携推進委員
中川 裕志	ナカガワヒロシ		情報基盤センター・教授	統計的機械学習 自然言語処理工学博士	キャリアパス形成委員
室田 一雄	ムロタカズオ		大学院情報理工学系研究科 数理情報学専攻・教授	数理工学工学博士、 博士(理学)	学生評価委員
山西 健司	ヤマニケンジ		大学院情報理工学系研究科 数理情報学専攻・教授	機械学習、データマイニング博士(工学)	評価・計画WG委員、キャリアパス形成委員
松尾 宇泰	マツオタカヤス		大学院情報理工学系研究科 数理情報学専攻	数値解析学博士(工学)	企画戦略室員
中村 宏	ナカムラヒロシ		大学院情報理工学系研究科 システム情報学専攻・教授	コンピュータシステムアーキテクチャ工学博士	運営協議会委員、キャリアパス形成委員

15. プログラム担当者一覧(続き)

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門 学位	役割分担 (平成26年度における役割)
中村 宏	ナカムラヒロシ		大学院情報理工学系研究科 システム情報学専攻・教授	コンピュー タシステム アーキテク チャ 工学博士	運営協議会委員、キャリアパス形成 委員
原 辰次	ハラシンジ		大学院情報理工学系研究科 システム情報学専攻・教授	システム制 御工学 工学博士	運営協議会委員、連携推進委員
奈良 高明	ナラタカアキ		大学院情報理工学系研究科 システム情報学専攻・准教授	計測工学、 数理工学 博士(工 学)	学生評価委員
相澤 清晴	アイザワキヨハル		大学院情報理工学系研究科電子 情報学専攻・教授	映像・メ ディア処理 工学博士	キャリアパス形成委員
浅見 徹	アサミトオル		大学院情報理工学系研究科 電子情報学専攻・教授	情報通信工 学 情報理工学 博士	連携推進委員
伊庭 斉志	イバヒトシ		大学院情報理工学系研究科 電子情報学専攻・教授	進化計算 工学博士	運営協議会委員、キャリアパス形成 委員
苗村 健	ナエムラタケシ		大学院情報学環・学際情報学府 学際情報学専攻・教授	実世界指向 メディア工 学 工学博士	学生評価委員
下山 勲	シモヤママイサオ		大学院情報理工学系研究科 知能機械情報学専攻・教授	MEMS ロボ ティクス 工学博士	運営協議会委員、評価・計画WG委員
中村 仁彦	ナカムラヨシヒコ		大学院情報理工学系研究科 知能機械情報学専攻・教授	ロボティク ス 工学博士	連携推進委員
廣瀬 通孝	ヒロセミチタカ		大学院情報理工学系研究科 知能機械情報学専攻・教授	ヒューマン インタ フェース 工学博士	学生評価委員
稲葉 雅幸	イナバマサユキ		大学院情報理工学系研究科 創造情報学専攻・教授	ロボティク ス 工学博士	カリキュラム委員
江崎 浩	エサキヒロシ		大学院情報理工学系研究科 創造情報学専攻・教授	インター ネット 工学博士	運営協議会委員、プロジェクトイン キュベーション機構員
千葉 滋	チバシゲル		大学院情報理工学系研究科 創造情報学専攻・教授	ソフトウェ ア 博士(理 学)	学生評価委員
平木 敬	ヒラキケイ		大学院情報理工学系研究科 創造情報学専攻・教授	並列計算 理学博士	プロジェクトインキュベーション機 構員

15. プログラム担当者一覧(続き)

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門 学位	役割分担 (平成26年度における役割)
中山 英樹	ナカヤマヒデキ		大学院情報理工学系研究科 創造情報学専攻・講師	コンピュー タビジョ ン博士(情報 理工学)	企画戦略室員
合原 一幸	アイハラカズユキ		生産技術研究所・教授	複雑シス テム学 工学博士	グローバルデザインWS企画推進機構 員
喜連川 優	キツレガワマサル		生産技術研究所・教授/国立情 報学研究所長・教授	データ工学 工学博士	企画戦略室員、グローバルデザイン WS企画推進機構員
生田 幸士	イクタコウジ		先端科学技術研究センター・教 授	医用マイク ロマシン 工学博士	グローバルデザインWS企画推進機構 員
藤井 真理子	フジイマリコ		先端科学技術研究センター・教 授	ファイナン ス 博士(学 術)	学生評価委員
須藤 修	スドウオサム		大学院情報学環・学際情報学府 学際情報学専攻・教授	社会情報 学、情報経 済論 経済学博士	運営協議会委員
坂村 健	サカムラケン		大学院情報学環・学際情報学府 学際情報学専攻・教授	コンピュー ターアーキ テクチャ 工学博士	グローバルデザインWS企画推進機構 員
田中 秀幸	タナカヒデユキ		大学院情報学環・学際情報学府 学際情報学専攻・教授	社会情報学 M. A. (IR)	連携推進委員
橋元 良明	ハシモヒデアキ		大学院情報学環・学際情報学府 学際情報学専攻・教授	社会心理学 修士(社会 学)	カリキュラム委員
暦本 純一	レキモトジュンイチ		大学院情報学環・学際情報学府 学際情報学専攻・教授	Human Computer Interaction 博士(理学)	グローバルデザインWS企画推進機構 員
水越 伸	ミズコシシン		大学院情報学環・学際情報学府 学際情報学専攻・教授	メディア論 修士(社会 学)	学生評価委員
中尾 彰宏	ナカオアキヒロ		大学院情報学環・学際情報学府 学際情報学専攻・教授	計算機科学 Ph. D	連携推進委員
大島 まり	オオシママリ		生産技術研究所・教授	バイオ・マ イクロ流体 工学 工学博士	グローバルデザインWS企画推進機構 員

15. プログラム担当者一覧(続き)

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門	役割分担 (平成26年度における役割)
飯塚 敏晃	イイツカトシアキ		公共政策教育部 公共政策学専攻・教授	医療経済学 産業組織論 Ph. D.	キャリアパス形成委員
奥村 裕一	オクムラヒロカズ		公共政策学教育部 公共政策学専攻・客員教授	行政近代化 とICT 教養学士	運営協議会委員、企画戦略室員
金井 利之	カナイトシユキ		大学院法学政治学研究科 総合法政専攻・教授	自治体行政 学 法学士	学生評価委員、カリキュラム委員
藤本 隆宏	フジモトタカヒロ		大学院経済学研究科・マネジ メント専攻・教授	技術・生産 管理 D. B. A	キャリアパス形成委員
新宅 純二郎	シンタクジュンジロウ		大学院経済学研究科・マネジ メント専攻・教授	経営戦略 経済学博士	運営協議会委員、プロジェクトイン キュベーション機構員
相田 仁	アイダヒトシ		大学院工学系研究科・電気系工 学専攻・教授	情報通信工 学 工学博士	運営協議会委員、キャリアパス形成 委員
浅見 泰司	アサミヤスシ		大学院工学系研究科 都市工学専攻・教授	都市計画、 都市住宅 学、空間情 報科学、 Ph. D.	学生評価委員
小林 和彦	コバヤシカズヒコ		大学院農学生命科学研究科 農学国際専攻・教授	農業気象学 農学博士	学生評価委員
溝口 勝	ミゾグチマサル		大学院農学生命科学研究科 農学国際専攻・教授	国際情報農 学 農学博士	運営協議会委員、 プロジェクトインキュベーション機 構員
二宮 正士	ニノミヤセイシ		大学院農学生命科学研究科 附属生態調和農学機構・教授	フィールド インフォマ ティクス 農学博士	キャリアパス形成委員
下山 晴彦	シモヤマハルヒコ		大学院教育学研究科 総合教育科学専攻・教授	臨床心理学 博士(教育 学)	運営協議会委員、学生評価委員
真田 弘美	サナダヒロミ		大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻・教授	看護学 博士(医 学)	キャリアパス形成委員
山本 則子	ヤマモトノリコ		大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻・教授	成人・緩和ケ ア 看護学 Ph. D. (nursi ng)	学生評価委員
大江 和彦	オオエカズヒコ		大学院医学系研究科・社会医学 専攻・教授	医療情報学 医学博士	運営協議会委員、学生評価委員

(機関名:東京大学 類型: 複合領域型(情報) プログラム名称:ソーシャルICT グローバル・クリエイティブリーダー育成プログラム)

15. プログラム担当者一覧(続き)

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門	役割分担 (平成26年度における役割)
真田 弘美	サナダヒロミ		大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻・教授	看護学 博士(医学)	キャリアパス形成委員
山本 則子	ヤマモトノリコ		大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻・教授	成人・緩和ケア 看護学 Ph. D. (nursing)	学生評価委員
大江 和彦	オオエカズヒコ		大学院医学系研究科・社会医学 専攻・教授	医療情報学 医学博士	運営協議会委員、学生評価委員
小林 廉毅	コバヤシヤスキ		大学院医学系研究科・公共健康 医学専攻・教授(兼任)社会医学 専攻・教授	公衆衛生学 医療政策 医学博士	キャリアパス形成委員
篠田 裕之	シノダヒロユキ		大学院新領域創成科学研究科複 雑理工学専攻・教授	計測工学 博士(工学)	カリキュラム委員
國廣 昇	クニヒロノボル		大学院新領域創成科学研究科 複雑理工学専攻・准教授	暗号理論 情報セキュリティ 博士(工学)	グローバルデザインWS企画推進機構員
橋田 浩一	ハシダコウイチ		大学院情報理工学系研究科ソー シャルICT研究センター・教授 /副センター長	自然言語処 理、個人 データ管 理、オン トロジー工 学理学博士	カリキュラム委員
大西 立顕	オオニシタカアキ		大学院情報理工学研究科ソー シャルICT研究センター・准教 授	数理工学 博士(科 学)	カリキュラム委員
中田 登志之	ナカタトシユキ		大学院情報理工学研究科ソー シャルICT研究センター・教授	次世代社会 システムICT 工学博士	企画戦略室員、学生指導委員、プロ ジェクトインキュベーション機構員
重木 昭信	シゲキアキノブ		(株)JBISホールディング ス社 代表取締役社長顧問(日 本電子計算(株)社長兼務) 経団連 情報通信委員会高度情 報通信人材育成部会	プロジェ クト・マネ ジメント 工学士	企画戦略室員、学生評価委員
岩野 和生	イワノカズオ		三菱商事株式会社 企画業務部 顧問 兼 ビジネスサービス部門 顧問 独立行政法人 科学技術振興機 構 研究開発戦略センター 上席 フェロー	クラウドコ ンピュー ティング Ph. D.	企画戦略室員、評価・計画WG委員

15. プログラム担当者一覧(続き)

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門	役割分担 (平成26年度における役割)
大力 修	ダイリキオサム		新日鉄住金ソリューションズ株式会社 シニアテクニカルアドバイザー	人材育成戦略 M.S.	運営協議会委員、企画戦略室員
浅川 智恵子	アサカワチエコ		日本IBM 基礎研究所 IBMフェロー	HCI (アクセシビリティ) 博士(工学)	キャリアパス形成委員
鈴木 久美	スズキヒサミ		Microsoft Senior Program Manager (米国)	自然言語処理とその応用 博士(言語学)	キャリアパス形成委員
Feng Zhao	フン ツァオ		Microsoft Microsoft Research Asia Assistant Managing Director (中国)	センサ・ネットワーク、クラウド・コンピューティング Ph. D.	キャリアパス形成委員
安藤 穰	アンドウジョウ		Infosys Limited, Marketing Manager	マーケティング 学士(経済学)	キャリアパス形成委員
工藤 拓	クドウタク		Google Inc. ソフトウェアエンジニア	統計的自然言語処理 博士(工学)	連携推進委員
長洲 毅志	ナガスタケン		エーザイ(株)プロダクトクリエーション本部、ポートフォリオ戦略推進部 顧問	分子生物学 創薬科学 薬学博士	グローバルデザインWS企画推進機構員
牧野 司	マキノツカサ		東京海上日動火災保険株式会社 IT企画部課長 兼 経営企画部参事 東京海上研究所 主席研究員 日本情報システム・ユーザー協会主任研究員	最新ICT動向の調査・研究 経済学士	プロジェクトインキュベーション機構員、カリキュラム委員
Sophia Ananiadou	ソフィア アナニアドゥ		University of Manchester School of Computer Science Professor (英国)	自然言語処理 テキストマイニング Ph. D.	連携推進委員

(機関名:東京大学 類型: 複合領域型(情報) プログラム名称:ソーシャルICT グローバル・クリエイティブリーダー育成プログラム)

15. プログラム担当者一覧(続き)

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門 学位	役割分担 (平成26年度における役割)
Bertrand Meyer	バーランド マイヤー		ETH Zürich Department of Computer Science Professor (スイス)	ソフトウェ ア工学 Ph. D.	連携推進委員
Daniele Gerundino	ダニエル ゲルンディノ		ISO Strategic Adviser to the Secretary-General (イタリア)	標準化, イノ ベーション, サステナブル 開発 Doctor in Physics	連携推進委員
Kameshwar Poola	カメッシュワル ポーラ		UC Berkeley Department of Mechanical Engineering Professor (米国)	電気工学 Ph. D.	連携推進委員
Sandra Hirehe	サンドラ ヒルシュ		Technische Universität Mü nchen Institute of Automatic Control Engineering Professor (ドイツ)	制御工学、 ネットワー ク協調制御 Dr.-Ing.	連携推進委員
Serge Fdida	サージ フディダ		Université Pierre & Marie Curie Computer Science Department Distinguished Professor (フランス)	ネットワー ク学 Ph. D	連携推進委員
Somboon Sangwongwanich	ソンプーン サンウォンワンニチ		Chulalongkorn University Dept. of Electrical Engineering Assistant Professor (タイ)	電力工学/ス マートグ リッド技術 Dr. Eng	連携推進委員
Stephen Jenner	スティーブン ジュンナー		Portfolio Solutions Co. Lt d, Director (英国)	プロジェク トポート フォリオ・ 利益管理 M. St., MBA	キャリアパス形成委員
廉 宗淳	ヨム ジョンスン		e-Corporation. JP(株) 代表取締役社長	電子政府・ 電子自治体 修士(国際情 報通信)	グローバルデザインWS企画推進機構 員
丸山 宏	マルヤマヒロシ		情報・システム研究機構 統計数理研究所・教授	計算機科学 博士(工 学)	カリキュラム委員、 評価・計画WG委員

(機関名:東京大学 類型: 複合領域型(情報) プログラム名称:ソーシャルICT グローバル・クリエイティブリーダー育成プログラム)

15. プログラム担当者一覧(続き)

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門学位	役割分担 (平成26年度における役割)
楠 正憲	クスノキマサノリ		ヤフー株式会社/CISO Board/ 政府CIO補佐官/内閣官房 社会 保障改革担当室番号制度推進管 理補佐官	技術政策・ 国際標準 化・電子行 政 学士(経済 学)	プロジェクトインキュベーション機 構員、キャリアパス形成委員
川島 宏一	カワシマヒロイチ		佐賀県 特別顧問	公共イノ ベーション 社会工学博 士	グローバルデザインWS企画推進機構 員
松永 明	マツナガアキラ		経済産業省審議官(経済産業政 策局担当)	IT戦略 LL.M.	企画戦略室員・キャリアパス形成委 員
平本 健二	ヒラモトケンジ		内閣官房副長官補室 兼情報通信 技術担当室	電子政府 情報システ ム 工学修士	連携推進委員
鈴木 茂樹	スズキシゲキ		総務省 情報通信国際戦略局 局長	情報通信政 策 農学士	評価・計画WG委員
高地 圭輔	タカチケイスケ		公益社団法人日本経済研究セン ター研究本部予測分析部主任研 究員	ブロードバ ンド 電子自治体 博士(経済 学)	学生評価委員
田中 正躬	タナカマサミ		財団法人日本規格協会 特別アドバイザー	国際標準問 題 M.Phil	キャリアパス形成委員
奥和田 久美	オクワダクミ		科学技術政策研究所 上席フェロー	科学技術政 策 科学技術予 測 工学博士	グローバルデザインWS企画推進機構 員
佐野 景子	サノケイコ		独立行政法人 国際協力機構 (JICA) 人間開発部 高等教 育・社会保障グループ	社会保 障 学士(外国 語学)	連携推進委員

(機関名:東京大学 類型: 複合領域型(情報) プログラム名称:ソーシャルICT グローバル・クリエイティブリーダー育成プログラム)

15. プログラム担当者一覧(続き)

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門	役割分担 (平成26年度における役割)
小笠原 敦	オガサワラアツシ		科学技術政策研究所 科学技術動向研究センター センター長	科学技術政策 学士(教育学)	連携推進委員
東川 淳紀	ヒガシカワアツノリ		株式会社NTTデータ グループ経営企画本部 課長	組織ガバナンス/ITガバナンス 修士(工学)	連携推進委員
満塩 尚史	ミツシオヒサフミ		経済産業省 商務情報政策局情報政策課 情報プロジェクト室 CIO補佐官	電子行政 博士(物理)	評価・計画WG委員
根本 朋生	ネモトトモオ		総務省総合通信基盤局電波部電波政策課 課長補佐	情報通信政策 学士(理学)	連携推進委員
山内 祐平	ヤマウチユウヘイ		特殊非営利活動法人 EduceTechnologies代表理事 /大学院情報学環・学際情報学府・学際情報学専攻・教授	教育工学・学習環境デザイン論 博士(人間科学)	グローバルデザインWS企画推進機構員、 カリキュラム委員

(機関名:東京大学 類型: 複合領域型(情報) プログラム名称:ソーシャルICT グローバル・クリエイティブリーダー育成プログラム)

16. プログラムの応募学生数、合格者数及び受講学生数

本学位プログラムの過去3年間のリーディングプログラム応募学生数等について記入してください。

(各年度3月31日現在(ただし平成27年度は提出日現在))

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度 *(今後の募集予定: 有(無))	
プログラム募集定員数(実数)	人	70人	70人	75人	
① 応募学生数	人	87人	76人	96人	
	うち留学生数	人	9人	13人	20人
	うち自大学出身者数	0人(人)	46人(1人)	34人(1人)	46人(7人)
	うち他大学出身者数	0人(人)	41人(8人)	42人(12人)	50人(13人)
	うち社会人学生数	0人(人)	3人(0人)	23人(4人)	22人(9人)
うち女性数	0人(人)	21人(2人)	24人(3人)	26人(5人)	
② 合格者数	人	57人	66人	76人	
	うち留学生数	人	3人	11人	18人
	うち自大学出身者数	0人(人)	36人(1人)	29人(1人)	35人(6人)
	うち他大学出身者数	0人(人)	21人(2人)	37人(10人)	41人(12人)
	うち社会人学生数	0人(人)	3人(0人)	21人(3人)	20人(6人)
うち女性数	0人(人)	13人(1人)	24人(3人)	22人(5人)	
③ ②のうち受講学生数	人	54人	60人	72人	
	うち留学生数	人	3人	10人	16人
	うち自大学出身者数	0人(人)	33人(1人)	28人(1人)	34人(6人)
	うち他大学出身者数	0人(人)	21人(2人)	32人(9人)	38人(10人)
	うち社会人学生数	0人(人)	3人(0人)	21人(3人)	20人(6人)
うち女性数	0人(人)	13人(1人)	22人(3人)	21人(5人)	
プログラム合格倍率(①応募学生数/②合格者数)(小数点第二位を四捨五入)	0.0倍	1.5倍	1.2倍	1.3倍	
充足率(合格者数/募集定員)	0.00%	81.00%	94.00%	101.00%	

※うち自大学出身者数、うち他大学出身者数、うち社会人学生数、うち女性数の()には留学生数を内数で記入してください。

※平成27年度*(今後の募集予定:有・無)については、平成27年度内に受講を開始する学生を募集予定の場合(秋入学等)は「有」に、募集予定がない場合は「無」に印を付けてください。また、有の場合は、プログラム募集定員数(実数)欄には募集予定人数を含めず、下記備考欄へ募集時期とともに記載してください。

※編入学生がいる場合は、年度ごとの内訳を備考欄に記入してください。

17. 学位プログラムの受講学生数・修了(予定)者数
各年度における本学位プログラムの受講学生数を記入してください。

①区分制及び一貫制博士課程

(各年度3月31日現在(ただし平成27年度は提出日現在))

学位プログラムの受講学生数等	平成24年度							平成25年度							平成26年度							平成27年度							平成28年度	平成29年度			
	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計									
平成24年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
うち留学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
うち自大学出身者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
うち他大学出身者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
うち社会人学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
うち女性数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
平成25年度							54	0	0	0	0	54	0	18	0	0	0	18	0	1	13	0	0	14									
うち留学生数							3	0	0	0	0	3	0	2	0	0	0	2	0	0	2	0	0	2									
うち自大学出身者数							33	0	0	0	0	33	0	6	0	0	0	6	0	0	5	0	0	5									
うち他大学出身者数							21	0	0	0	0	21	0	12	0	0	0	12	0	1	8	0	0	9									
うち社会人学生数							3	0	0	0	0	3	0	1	0	0	0	1	0	0	2	0	0	2									
うち女性数							13	0	0	0	0	13	0	6	0	0	0	6	0	0	6	0	0	6									
平成26年度													54	0	6	0	0	60	0	15	0	6	0	21									
うち留学生数													8	0	2	0	0	10	0	5	0	2	0	7									
うち自大学出身者数													25	0	3	0	0	28	0	5	0	3	0	8									
うち他大学出身者数													29	0	3	0	0	32	0	10	0	3	0	13									
うち社会人学生数													18	0	3	0	0	21	0	0	0	1	0	1									
うち女性数													20	0	2	0	0	22	0	6	0	2	0	8									
平成27年度																			59	5	7	0	0	71									
うち留学生数																			11	2	2	0	0	15									
うち自大学出身者数																			29	2	3	0	0	34									
うち他大学出身者数																			30	3	4	0	0	37									
うち社会人学生数																			14	0	5	0	0	19									
うち女性数																			17	2	1	0	0	20									
計	0	0	0	0	0	0	54	0	0	0	0	54	54	18	6	0	0	78	59	21	20	6	0	106									
修了者数	0						0						0						6	20													
就職者数	0						0						0																				
プログラム対象学生以外で、プログラムのカリキュラムの一部を受講している学生数	0						28						30						33														

※「16. プログラムの応募学生数、合格者数及び受講学生数」と整合性を取ってください。
 ※「修了者数」の平成27、28、29年度については、修了予定者数を記入してください。
 ※就職者にはプログラムを修了後に就職した者(起業した者も含む)のみをカウントしてください。
 ※辞退者(Q.E.によるものも含む)がいる場合は、年度毎の内訳およびその理由を備考欄に記入してください。

17. 学位プログラムの受講学生数・修了(予定)者数

各年度における本学位プログラムの受講学生数を記入してください。

②医・歯・薬・獣医学の4年制博士課程

(各年度3月31日現在(ただし平成27年度は提出日現在))

学位プログラムの受講学生数等	平成24年度					平成25年度					平成26年度					平成27年度					平成28年度	平成29年度
	D1	D2	D3	D4	計	D1	D2	D3	D4	計	D1	D2	D3	D4	計	D1	D2	D3	D4	計		
平成24年度選抜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
うち留学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
うち自大学出身者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
うち他大学出身者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
うち社会人学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
うち女性数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
平成25年度選抜																						
うち留学生数																						
うち自大学出身者数																						
うち他大学出身者数																						
うち社会人学生数																						
うち女性数																						
平成26年度選抜																						
うち留学生数																						
うち自大学出身者数																						
うち他大学出身者数																						
うち社会人学生数																						
うち女性数																						
平成27年度選抜																						
うち留学生数																						
うち自大学出身者数																						
うち他大学出身者数																						
うち社会人学生数																						
うち女性数																						
計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1		
修了者数	0					0					0					0					0	0
就職者数	0					0					0											
プログラム対象学生以外で、プログラムのカリキュラムの一部を受講している学生数	0					0					0					0						

※「16. プログラムの応募学生数、合格者数及び受講学生数」と整合性を取ってください。

※「修了者数」の平成27、28、29年度については、修了予定者数を記入してください。

※就職者にはプログラムを修了後に就職した者(起業した者も含む)のみをカウントしてください。

※辞退者(Q.E.によるものも含む)がいる場合は、年度毎の内訳およびその理由を備考欄に記入してください。

リーダーを養成するプログラムの概要、特色、優位性

(広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダー養成の観点から、本プログラムの概要、特色、優位性を記入してください。)

【概要】情報通信技術(ICT)が世界中の人と事物を複雑に結び、急速に変動する未経験の社会経済システムが出現する中で、次々と発生する新たな問題や可能性を捉え、人々に価値あるソリューションを創造し実現する変革が強く求められている。本プログラムでは、ビッグデータ、複雑システム、ヒューマンシステムの先端 ICT を基軸とし、複数専門分野を統合して、社会の喫緊の課題を解決し、あるいは新たな価値をもたらす知識社会経済システムを創造的にデザインし、社会イノベーションを先導するトップリーダーとチームを育成する。

修了者は企業、行政、公共機関、ベンチャー起業、NPO/NGO、研究機関等で次のような課題に取り組む：**スマート社会**（東北再生、インフラ、農業含む産業、流通、生活・文化、コミュニティ、医療・健康、災害・テロ耐性）、**次世代行政システム**（電子行政、意思決定支援、情報社会制度・政策等）、**新サービス創出**（ICT 高度活用での医療・健康・食・メンタルヘルスの向上、ビッグデータ・SNS・サイバーフィジカル・ロボット活用）。

＜人材像＞以下の能力を養成：(1)情報および制度・経済の横串とグローバルな視点で現代の社会・経済システムの本質的な問題や可能性を発見する能力。(2)先端科学技術と人々にとっての価値・意味の両方を理解し、高い理想と倫理のもとに、新たな社会のビジョンと価値創造のシナリオを描く能力。(3)先端 ICT と工学、農学、医学、社会科学の高度専門力を基盤とし、新たな知識社会経済システムを創造的かつ具体的にデザインする能力。(4)それを具現化するプロジェクトを、ステークホルダーのコンセンサスを得て、世界トップレベルの専門家集団を率い、戦略的プロジェクトマネジメントのもとに、オープンスパイラル型の実践方法論で強靱に推進・達成する能力と方法論自体を創造する能力。

＜博士論文＞学生が主体的に企画、実施し評価を受けたプロジェクト実践（約 2 年間）について、課題の発見・分析、計画、実施、評価、再利用可能な知見の抽出、今後の課題と展望を高い水準で記述したもの。特に波及効果と社会先導性に重点をおいた独自の基準を導入し開かれた学位審査を行う。

【特色】単なる複合専門教育や演習枠内の従来型 PBL を超えて、ICT 高度利活用を基軸とする社会イノベーションに向けたオープンかつ発展的な取組を本格展開し、その中で実践的に人材育成を行う。

本プログラムは、特定の専門や課題に閉じた従来型方法ではなく、複数の専門と課題にまたがったオープンかつ統合的なシステムデザイン的能力育成を最大の特徴とする。このため、上述の課題および専門分野の全てから、産官民学の別や国境を越えた 25 以上の外部連携機関のトップ人材 34 名と東京大学の 9 部局 17 専攻の教員 59 名、計 93 名からなる世界トップレベルの指導者集団を確保する。これにより、学生が自ら企画した社会イノベーションプロジェクトのために縦横無尽に専門や業種を超えて複数の指導者を選定することが可能となる。指導者集団は次の革新的な育成手法にも参加し強力に支援する：社会の第一線の人材と学生が対等に白熱討論するグローバルデザインワークショップで新たな課題と企画を次々と打ち出し、社会に発信して意見を募る。これを学生主体の個別プロジェクト計画（実施期間 2 年程度）に具体化し、外部連携機関と共同設置するプロジェクトインキュベーション機構により始動し支援していく。育成システムや講義演習について、産官民学協働を特徴とする評価・計画 WG 等で継続的に検証、改良し発展させる。積極的な対外発信と社会対話を通して、これらを世に問い、オープンな発展を期する。

＜質保証システムの特徴＞専門基礎・実践力強化、三段階選抜と共通必修科目群に加え、入学から修了まで継続して密着型多元評価を行い、リーダー、マネジャー、スペシャリスト等のロール（役割）適性評価の付与、進路振分や奨励金への反映に加え、キャリアパスポートとして交付し、就職先に提出させる。個別指導メンターの報告を踏まえ、産官民学協働の学生評価委員会が社会の人材ニーズも反映しつつ評価する。また、追跡調査等に基づき評価法の継続的改善に力を入れる。

＜キャリアパス支援＞経団連等の外部連携機関と協働し、質保証と連動した特別枠設定も含むキャリアパスを設計し、上記ワークショップ等での交流も連動し学生の能力を活かす場を提供する。

【優位性】

- ・卓越した先端 ICT 研究教育基盤：ビッグデータ時代を先取りした情報爆発プロジェクト、大きな成功を収めた東大グリーン ICT、高度な複雑系科学による社会課題への取り組み、先進のヒューマンインタフェース技術やロボット技術の実績。

- ・東大のポテンシャルを発揮する学内連携：社会課題領域と社会デザインに関わる工学、医学、農学、社会科学の分野のトップレベルの専攻教員との協働による強力な研究教育体制。

- ・産官民学・海外の強力な外部機関との密な協働：経団連、日本情報システム・ユーザー協会、公的研究機関、行政機関、NPO、グローバル企業、ベンチャー企業・起業家、海外大学等との密な協働により、キャリアパス設計、学生プロジェクト支援、ワークショップ、インターンシップ、メンター・講師派遣、プログラム改善等を効果的に推進する。経団連等 5 機関とは覚書を交わし、本提案の構想段階から協議を重ねており、共通理解と協力体制が確立している。

- ・産学連携、国際化教育の強力な実績：産学連携 R2P、北京特別入試、情報理工学国際センター等。

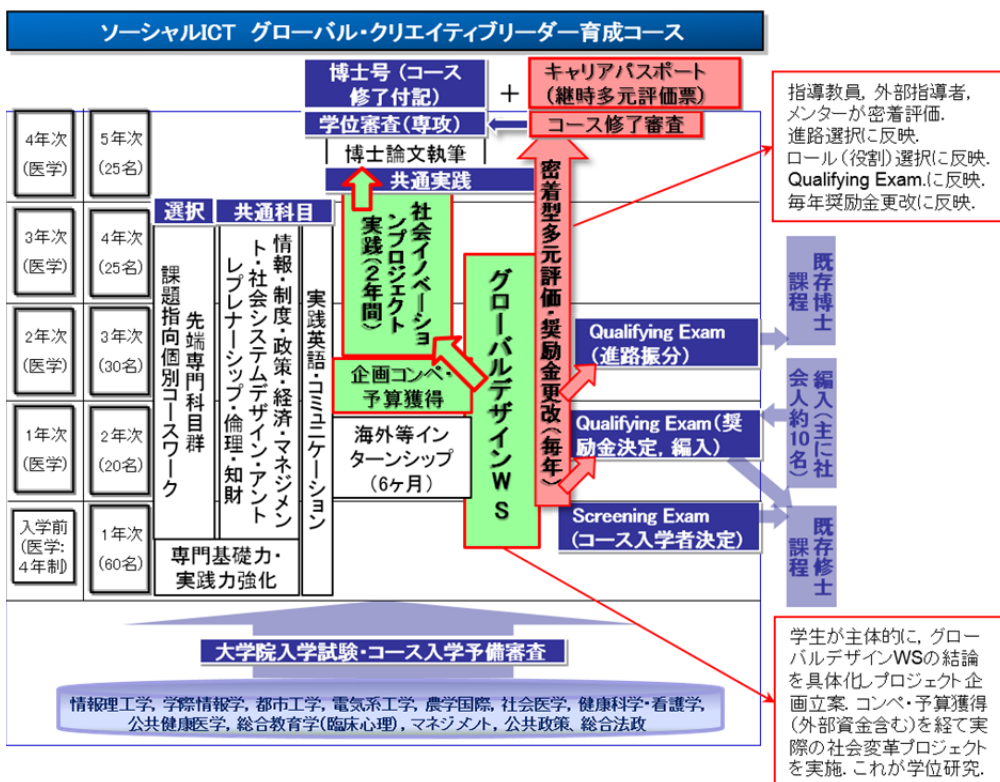
学位プログラムの概念図

(優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーとして養成する観点から、コースワークや研究室ローテーションなどから研究指導、学位授与に至るプロセスや、産学官等の連携による実践性、国際性ある研究訓練やキャリアパス支援、国内外の優秀な学生を獲得し切磋琢磨させる仕組み、質保証システムなどについて、学位プログラムの全体像と特徴が分かるようにイメージ図を書いてください。なお、共同実施機関及び連携先機関があるものについては、それらも含めて記入してください。)

概念図



課程構成



「博士課程教育リーディングプログラム」中間評価結果

機関名	東京大学	整理番号	K01
プログラム名称	ソーシャル ICT グローバル・クリエイティブリーダー育成プログラム		
プログラム責任者	坂井 修一	プログラム コーディネーター	國吉 康夫

◇博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価（公表用）

[総括評価]

計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。

[コメント]

リーダーを養成する学位プログラムの確立については、プログラムコーディネーターの強力な指導力の下、GDWS (Global Design Workshop)、合宿、ハッカソン、GD Techtalks、学生の自主企画プロジェクト、プレゼンコンペ等、特徴的な取組が多数実施され、かつそれらが学生にとって過負荷とならないよう配置されており高く評価できる。

産学官民参画による修了者のグローバルリーダーとしての成長及び活躍の実現性については、学外プログラム担当者の積極的な関与、GD Techtalks の実施、国内・国外インターンシップの義務化などにおいて高く評価できるが、グローバルに活躍できる人材育成という観点からは、単なる交流を超えて海外へインパクトを与えるような挑戦的な取組が期待される。また、学生には研究職志向がかなり強いことから、理工系学生、文系学生それぞれに対するグローバル・クリエイティブリーダー (GCL) としてのキャリアパスの形成について、一層の取組が期待される。GCL を育てるための日常的な国際環境の構築や、GCL の対外的なステータスの確立も期待される。

グローバルに活躍するリーダーを養成する指導体制の整備については、層の厚い教授陣や豊富な学外プログラム担当者が配置されていることは評価できるが、学内の教授全員がコミットしている状況にはまだなく、今後の改善が期待される。

優秀な学生の獲得については、情報系の学生、他大学出身者、留学生などダイバーシティのある優秀な学生が集まっており、またそうした学生の横の繋がりが非常に強く、新しいコミュニティが形成されている点も高く評価できる。

世界に通用する確かな学位の質保証システムについては、1 年次の予備審査、密着多元評価、産官の学外担当者的評価など、きめ細かいシステムが整備されていることは評価できる。

事業の定着・発展については、本プログラムの発展的継続が東京大学ビジョン 2020 に位置付けられており、今後本プログラムが持続的に発展するなかで、プログラムの社会的な先導性や波及効果に対する評価の実施が期待される。